

総 論

平成25年度事業計画に基づき、高齢者が自立して安心した暮らしが営めるよう、施設サービスと在宅サービス共に重点事項に沿った支援をしてまいりました。

さらに地域に根ざした福祉事業として平成25年6月1日に若松区ひびきの南1丁目2-3にひびきの虹色館、地域密着型特別養護老人ホーム（定員29床）、認知症対応型共同生活介護（定員18名）、小規模多機能型居宅介護（定員25名）を開設しました。

しかし、小規模多機能型居宅介護はご利用者の確保に時間がかかり、開設を8月に伸ばしましたが思うように登録数が増えず本年度は赤字運営となりました。

施設事業の稼働率はほぼ100%に対し、在宅事業（居宅・訪問・短期入所・小規模多機能型）はやや低迷気味でありました。

次年度、在宅事業におきましては、家族支援の困難な方、独居、高齢者世帯をいかに介護サービスに繋ぎ受け入れるかを課題に体制整備に努めていきたいと思っております。

また、本年度事業拡大に伴い法人職員も増え（約160名）、特に虹色館新人職員に対しては年間を通して職場内研修（介護保険制度、法令遵守、接遇、介護実技等）や外部研修（専門的ケア）を実施しました。

本年度も法人全職員を対象とした、質の高いケア目指して専門知識、技術の研修会及び医療に関する勉強会を開催しスキルアップに努めました。

介護福祉士国家試験向けの学習支援は、4名受験のうち3名合格、ケアマネジャーは1名合格しました。

尚、平成25年度事業は地域住民のニーズに沿った安心あるサービスの事業体として、行政機をはじめ医療、保健、福祉、地域との連携協力の下に、下記の重点項目を定め実施いたしました。

1. 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）定員70名

平成25年度の月平均在籍は69.5人、平均年齢 男性77.7歳 女性87.4歳
全体平均年齢85.18歳 平均要介護度は4.05でした

（※平成24年度の平均在籍は69.6人、平均要介護度4.03でした）

看取り介護に対するご家族、ご利用者、職員の意識は益々高くなり、本年度施設で穏やかな最期を迎えたいと希望されたご利用者は9名でした。（※平成24年度看取り5名）

虹色館オープン（平成25年6月1日）に伴う職員の異動により、新人職員の人材育成に時間を要した一年でした。

介護の質を低下させないように、個別に教育方針を立て計画的に実施することで、ご利用者本位の介護サービスに繋がるよう努力しました。

引き続き次年度も介護・看護・栄養士・調理員スタッフが一丸となりチーム力を高め、更に職員間のスキルアップを図り、安心ある介護に努めてまいりたいと思います。

2. ショートステイ（短期入所者生活介護事業）定員16名

平成25年度 1日平均13名の利用を目標としておりました。

平成25年度の1日平均利用人数は11.07人でした。（平成24年度は10.4人）

目標を上回らなった原因は、関係事業所（居宅介護支援事業所、虹色館など）と日常的に連携、協力体制が図れていなかったことが大きな要因と捉えます。

また、近年増加している認知症の高齢者の介護について、現場介護職員がしっかり専門知識を持って対応できる体制を構築することで受け入れ困難を回避できた感じます。

ショートステイの役割は、可能な限りにおいて在宅生活を長く維持していけるようご家族の支援を含め、個別自立支援として生活リハビリや健康管理をしっかり行い、心身機能の維持、改善を図ることを認識し、次年度は体制整備に努めてまいります。

3. デイサービスセンター（通所介護）定員25名

平成25年度のデイサービス利用は1日当たり平均18.2人でした。登録者51名

平成24年度1日平均21.6人 登録者58名

平成23年度1日平均21.4人

本年度の課題は安全、安心を基本に適正な職員人員配置と新規登録者の発掘でしたが、一昨年を下回る利用率並びに登録者となりました。

虹色館オープン（平成25年6月1日）に伴い正規職員2名を虹色館に異動し、パート職員を補充することで人件費を抑えることができました。

利用者の登録に向けた戦力について、自立支援を目指すりハビリは看護師・理学療法士の配置を検討しながら、個別リハビリ計画書や記録等の整備、専門的、技術的研修を実施しながらサービスの質の向上を図るべき努力を行います。

4. 居宅介護支援事業所

平成25年度介護支援専門員3名体制で事業をスタートしましたが、本年度後半から徐々に件数が減少しました。

しかしながら、老老介護、認認介護、虐待といった在宅介護に起こりうる介護の現状に対して、地域包括支援センターや行政機関等と連携を図りこれらに対応してまいりました。

次年度においても法人内併設事業所との協力体制のもと、各関係事業所、医療機関、地域との連携を図り、在宅支援を行って参ります。

引き続き、介護支援専門員の質の向上（在宅での看取り、認知症ケアの取り組みなど）と、緊急時の対応、苦情への迅速且つ適切な対応の強化を図ります。

5. 訪問介護（ヘルパーステーション）

平成24年から徐々に利用者が減少し、平成25年度も利用者が増えることなく派遣回数もかなり減ってきました。

同時に登録ヘルパーも高齢のため4名退職し、その後も登録ヘルパーの補充もできず、依頼された訪問サービスを断らなければならないといった悪循環が大きな要因と考えられます。次年度は、人材確保を最優先し訪問サービスを充実させたいと思います。

引き続き、訪問介護員の質の向上を目指しては、介護福祉士の資格取得に向け事業所内外の研修参加を計画的に行い、ご利用者の安心のある暮らしの支援サービスの質の向上に努めてまいります。

6. ケアハウス（軽費老人ホーム）定員25名

最高年齢 男性100歳 女性96歳 平均年齢 男性91.5歳 女性82歳

日常生活はほぼ自立の入居者がほとんどであります。高齢に伴い疾病を発症する方、急変する方が相次ぎ、本年度5名の退去がありました（内2名死亡退去）

疾病の早期発見と予防、生活リハビリの強化を働きかけながら予防介護に努め、入居者が喜びと輝きを持って過ごしていけるよう職員一丸となり自立支援に努めてまいります。

7. 地域密着型特別養護老人ホームひびきの虹色館 定員29名

平成25年6月1日開設

平均年齢 男性81.0歳 女性87.5歳

平均介護度 3.20

月平均在籍人数 28.7人

開設時より満床であり、ご利用者の皆様も比較的元気な方が多く、穏やかな暮らしを送っています。特に医療ニーズの高い方は1～2人で、他のご利用者は健康管理程度の支援で安定しています。

看護と介護、管理栄養士とのコミュニケーションを密に図りながら手探りの一年でしたが、職場内研修やユニット会議で学びを重ね心を一つにしてきました。

本年度の成果を次年度に繋げ、さらに介護の質を目指し努力していきたいと考えます。

8. グループホームひびきの虹色館 2ユニット 定員18名

平成25年6月1日開設

平均年齢 男性84.3歳 女性92.3歳

平均介護度 2.16

月平均在籍人数 17.2人

入居状況は6月14名 7.8.9.10月17名 11月より満床18名となり順調に運営してまいりました。

開設半年間は、認知症の高齢者の対応に大変苦慮しましたが、今では職員との馴染みの関係性ができ穏やかな生活を送っております。

訪問介護との連携で、医療的なケアの介入にもスムーズに実施できる体制となりました。

介護の専門職としての知識と実践を重ね、その方を中心とした認知症高齢者のケアを深めてまいりたいと思います。

9. 小規模多機能型居宅介護 ひびきの虹色館 登録定員25名 通い15名 泊9名

平成25年8月 ご利用者1名からスタートし、月平均利用人数は4,87名でした。

通いを中心とした小多機は平成26年8月を目標に登録定員25名満床を目指します。

引き続き各医療機関、事業所と連携を図りながら在宅支援体制を構築してまいります。